コロンビア経済（２０１５年１月）

　１月のコロンビア経済概況は以下のとおり。

【ポイント】

●DANE（国家統計庁）は，2014年のインフレ率が3.66％であった旨発表した。

●中銀は，2014年の対内直接投資が150億ドルで，前年比▲10.6％と発表した。

●2014年のコーヒー生産量は前年比＋11.5％の1,214万袋となり，7年振りに1,200万袋を超えた。

●2014年の石油生産量は日量98.8万バレルと100万バレルを下回り，政府目標の日量104万バレルを達成出来なかった。

●5日，エクアドル政府は，昨今の為替価値の下落（コロンビアペソ安ドル高）を理由に，緊急輸入規制措置を講じてコロンビア製品に21％の関税を課す旨発表した。また，28日，エクアドル政府は輸入製品のうち160品目については緊急輸入規制措置の規制対象外とする旨発表した。

【本文】

１　主な出来事

＜国内情勢＞

（１）経済見通し（14日及び30日，プレスリリース及び当地紙報道）

　30日，中銀は2014年度経済成長率を4.8％，2015年度同成長率を3.6％と予想した。

　世銀は2015年の世界の経済成長率を3.0％，コロンビアの経済成長率はラテンアメリカ諸国の平均2.6％を上回る4.4％と予想した。

（２）経済政策（23日，当地紙報道）

　カルデナス財務・公債相はスイス・ダボスで行われた世界経済フォーラムに出席し，原油価格の下落はコロンビア経済に影響を及ぼすであろうが，適切な経済政策を実施していること等を理由に大きなインパクトにはならない旨発言した。

（３）インフレ率（6日，当地紙報道）

　DANE（国家統計庁）は，2014年のインフレ率が3.66％であった旨発表した。

（４）第4世代道路網整備プロジェクト（4G）（30日，当地紙報道）

　ANI（国家インフラ庁）は，第2段コンセッション契約の10プロジェクトのうち4プロジェクトについて入札手続きを開始した旨発表した。なお，4プロジェクトへの投資額を8.4兆ペソ（約37.3億ドル）と見込んでいる。

（５）対内直接投資（10日，当地紙報道）

　中銀は，2014年の対内直接投資が150億ドルで，前年比▲10.6％と発表した。なお，鉱山・エネルギー分野に対する投資は前年比▲9.8％で，減少率が最も大きかった。

＜対外経済関係＞

（１）対日EPA関連（13日，プレスリリース）

　ハビエル・ガンボア対日EPA首席交渉官は，加工飲料，菓子，乳製品，缶詰のような農業加工業分野だけではなく，繊維，皮革及び靴の製造工業分野においてもポテンシャルを有しており，対日ＥＰＡの勝者になる旨説明するとともに，目標は２０１５年中に日・コロンビアＥＰＡ交渉を終了することであるところ，お互いの利害が満たされたときに同交渉が終了する旨明言した。

（２）対エクアドル関連（6日，15日及び29日，当地紙報道）

　5日，エクアドル政府は，昨今の為替価値の下落（コロンビアペソ安ドル高）を理由に，緊急輸入規制措置を講じてコロンビア製品に21％の関税を課す旨発表した。

　14日，アルバレス－コレア商工観光相及びリバデネイラ・エクアドル貿易相が会合を持ち，エクアドルが講じる緊急輸入規制措置に関して話し合った。同会合では両政府から状況改善のための提案等がなされ，今後も交渉を継続することで終了した。

　28日，エクアドル政府は輸入製品のうち160品目については緊急輸入規制措置の規制対象外とする旨発表した。なお，規制対象外となる品目は，動物用医薬品，顔料，インク，洗剤，接着剤，農薬，工業用化学製品，プラスチック，生のマグロ，植物抽出液，動物性及び植物性油脂，パン及び製菓用原料，紙，綿，ガラス，工具等である。

（３）対パナマFTA関連（7日及び8日，当地紙報道）

　アローチャ・パナマ貿易産業相は，パナマ，コロンビア間に存在する関税の問題が解決されるまで対コロンビアFTA法案の国会における批准手続きを凍結する旨言明した。他方，サラスティ・コロンビア商工観光次官は，2015年にコロンビアはパナマと同じく対パナマFTA法案を国会に上程しないと考えていた旨発言した。

（４）OECD（20日及び26日，当地紙報道）

　19日，カルデナス財務・公債相，ウリベ中銀総裁及びアルバロ・ペレイラOECD経済部長出席の下，OECDによるコロンビア経済調査報告書のプレス発表が行われた。OECDからはコロンビアのマクロ経済政策は力強い経済成長を達成しており，適切な経済政策を遂行している。また，税制及び年金制度改革を推進する必要がある等の評価及び指摘があった。

　アンヘル・グリアOECD事務局長は，コロンビアは2016年にOECDへ加盟出来るであろう旨述べた。

＜経済指標＞

（１）経済活動全般

（ア）実質工業生産指数（DANE発表）

　11月の実質工業生産指数（コーヒー豆加工を除く）は前年同月比▲0.9％であった。

（イ）実質小売売上高指数（DANE発表）

　11月の実質小売売上高指数は前年同月比＋8.4％であった。

（ウ）消費者信頼感指数（Fedesarrollo発表）

　12月の消費者信頼感指数（ICC）は，22.4％と前月（24.7％）を2.3ポイント下回り，前年同月比でも0.8ポイント下回った。

（２）産業動向

（ア）原油生産量（鉱山・エネルギー省発表）

　12月の石油生産量は日量100.7万バレルであり，前年同月と同じであった。また，2014年の石油生産量は日量98.8万バレルと100万バレルを下回り，政府目標の日量104万バレルを達成出来なかった。

（イ）コーヒー

（ⅰ）生産（コーヒー生産者連盟（FNC）発表）

　FNC加盟コーヒー生産者による12月のコーヒー生産量は108.6万袋（1袋＝60kg）となり，前年同月比で2.6％減少した。また，2014年の生産量は前年比＋11.5％の1,214万袋となり，7年振りに1,200万袋を超えた。

（ⅱ）価格（国際コーヒー機関発表）

　1月のコロンビア産マイルド・アラビック・コーヒーの価格は月平均1ポンド＝1.85ドル（前月は同1.90ドル，前年同月は同1.33ドル）であった。

（３）物価・雇用（DANE発表）

（ア）物価

　12月の消費者物価上昇率は＋3.66％（前年同月比，以下同），生産者物価上昇率は

＋1.27％であった。

（イ）雇用

　12月の全国平均失業率は8.7％と，前年同月の8.4％より0.3ポイント悪化した。また，主要13都市の平均失業率は9.3％と，前年同月の10.6％より1.3ポイント改善した。

（４）貿易収支（DANE発表）

　11月の貿易収支（FOB）は，12.86億ドルの赤字であった。輸出（FOB）全体では，前年同月比▲22.6％の38.28億ドル，輸入（CIF）全体では，前年同月比＋6.4％の53.54億ドルとなった。（了）